

令和4年度 練馬区立大泉第一小学校 自己評価 報告書

○本校の概要

| |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>【学校規模】◎学級数：10学級 ◎児童数：252名（9月1日現在） ◎教員数：15名 ◎所在地：練馬区大泉町3-16-23</p> <p>【学校の特色】</p> <p>◎児童は明るく素直な児童が多い。挨拶などの基本的な生活習慣は身に付いてきている。学力は、約7割の児童が基本的事項は理解できているが、二極化が進んでいる。</p> <p>◎野球、サッカー、バレーボールの3団体が連携して、児童の健全育成にあたっている。</p> <p>◎体力向上を目指して、朝遊びを奨励し、マラソン月間や縄跳び月間を設定している。</p> <p>◎PTAと連携して、長期休業日明けに集団登校を実施し8時15分には、ほぼ全校児童が登校完了をしている。また、朝遊びの時間を十分確保することで、生活リズムの形成と体力向上に取り組んでいる。</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

○自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目 | 目標 | 取組内容 | 目標に対する成果指標 | 成果評価 | これまでの取組 及び 今後の改善策 | 学校関係者記入欄 コメント |
|-------------|------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学力向上 | 児童・生徒一人ひとりの学が意欲を高め、確かな学力を定着させます。 | 学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 | 4:授業に関するアンケートにおいて、「めあてをもって授業に取り組む、解決することができた。」と回答した児童の割合が85%以上。 | 4 | 【取組】 ○算数科を中心に課題解決学習に取り組んだ。 ○学力の二極化に伴い、下位層児童の基礎基本の徹底を全校の共通課題として取り組んだ。 ○児童アンケート調査では91%の児童が「めあてをもって学習することができた」と答えている。 【今後の改善策】 ○学力の二極化に伴い、下位層児童の学習を中心に、家庭学習の充実のために、「学習カウンセリング」をよりきめ細かに、学習習慣がより身に付くよう取り組んでいく。 ○新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の実践に伴い、「する子 みる子 支える子 知る子」の育成を目指す授業を全校で取り組む。 | ・文章読解力が不足していると思う。 ・読書することが少ない。 ・反復学習が大切 ・何か一つに優れた能力を発揮することが大切。 ・一人ひとりの子供たちを丁寧に指導して下さっています。 ・二極化がなぜ起こるのか。 |
| | | 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 | 3:授業に関するアンケートにおいて、「めあてをもって授業に取り組む、解決することができた。」と回答した児童の割合が75%以上。 | | | |
| | | 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 | 2:授業に関するアンケートにおいて、「めあてをもって授業に取り組む、解決することができた。」と回答した児童の割合が65%以上。 | | | |
| | | 外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。 | 1:授業に関するアンケートにおいて、「めあてをもって授業に取り組む、解決することができた。」と回答した児童の割合が65%未満。 | | | |
| | | 授業改善推進プランを、授業に生かす。 | 計画的に問題解決学習(アクティブラーニング)を展開し、課題をもって学習に取り組む、解決することができるように支援する。 | | | |
| 豊かな心を育む | 子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。 | 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 | 4:学校生活に関するアンケートにおいて「きまりを守って学校生活を送ることができた。」と回答した児童の割合が85%以上。 | 4 | 【取組】 ○毎月の「いじめアンケート調査」を基に、いじめの早期発見、未然防止に取り組むことができた。また「いじめ防止対策推進法」を策定し、組織的に取り組んだ。その結果、児童が「いじめはイヤなこと」と認識するようになってきた。 ○児童アンケート調査で「きまりをまもって生活することができた」の項目で85%の児童が良くできたと答えていた。 【今後の改善策】 ○全校であいさつ運動をより充実させ、日常の挨拶の励行を図る。 ○各調査結果から、よりきめ細かに一人ひとりの児童の状況を把握し不登校0を目指す。 ○「大ー小いじめの宣言」を全校で日々実践し、「いじめ0」を目指す。 | ・下校時、挨拶する児童が減った気がする。 ・学校、家庭、地域が連携して子供たちの教育環境が整っている。 ・今まさに心の教育が大切である。 ・大ー小の子供たちの挨拶は素晴らしい。豊かな心がある。 |
| | | 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 | 3:学校生活に関するアンケートにおいて「きまりを守って学校生活を送ることができた。」と回答した児童の割合が75%以上。 | | | |
| | | 学校生活調査の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 | 2:学校生活に関するアンケートにおいて「きまりを守って学校生活を送ることができた。」と回答した児童の割合が65%以上。 | | | |
| | | 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 | 1:学校生活に関するアンケートにおいて「きまりを守って学校生活を送ることができた。」と回答した児童の割合が65%未満。 | | | |
| | | 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 | 道徳や学級活動を通じて、「ルールを守って」「優しい心」で学校生活が過ごせるように意図的に指導する。 | | | |
| 体力向上 | 子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。 | 新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。 | 4:体育の学習や体育朝会・休み時間において、児童の自己評価により、努力した児童が85%以上。 | 3 | 【取組】 ○一校一取組としてマラソン(持久走)、縄跳び運動に全校で取り組んだ。 ○朝遊びを実施し、児童の体力向上に取り組んだ。 ○児童アンケート調査で「体育の学習や休み時間に一生懸命運動や遊びをした」の項目で79%の児童が良くできたと答えていた。 【今後の改善策】 ○児童の体力について、体力テストを元に、「元気アップカード」を作成し、児童が自ら体力向上に挑戦できるように取り組ませる。 ○日々の体育授業について、研究を進め、体育授業の改善を図る。 | ・社会傾向でインドアが増えている。コロナの影響もあるが。 ・個人差が多いと感じる。 ・外遊びをする子供が少なくなった。 ・遅刻が少ないのは素晴らしい。 |
| | | 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 | 3:体育の学習や体育朝会・休み時間において、児童の自己評価により努力した児童が75%以上。 | | | |
| | | 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 | 2:体育の学習や体育朝会・休み時間において、児童の自己評価により努力した児童が65%以上。 | | | |
| | | 体育授業・体育的行事・休み時間など様々な機会を活用して、運動習慣の確立を推進する。 | 1:体育の時間や体育朝会・休み時間において、児童の自己評価により努力した児童が65%未満。 | | | |
| | | 「1校1取組」である持久走(マラソン)や縄跳び運動の取組を通して、児童の体力が向上するように指導する。 | | | | |
| 教育環境向上 | 教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。 | 授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 | 4:保護者による学校生活アンケートにおいて、授業に対する肯定的な意見が90%以上。 | 4 | 【取組】 ○校内研究で各教科研究授業に取り組む。学習指導力の育成に取り組んだ。 ○保護者アンケートでは「よりよい授業づくりに取り組んでいる」項目で96%が良くできていると答えている。 【今後の改善策】 ○ICT機器が、導入された。各教室で、活用されているが、児童の学びが深まる活用を、さらに実践していく。 ○校内研究を充実させ、「児童の深い学び」を目指し、学習指導力の向上に取り組んでいく。 | ・授業に集中できない児童への対処が必要だと思う。 ・急激な環境に対応している。 ・校長先生をはじめ教職員の皆様の熱意が感じられます。 |
| | | 授業改善の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 | 3:保護者による学校生活アンケートにおいて、授業に対する肯定的な意見が80%以上。 | | | |
| | | 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 | 2:保護者による学校生活アンケートにおいて、授業に対する肯定的な意見が60%以上。 | | | |
| | | 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 | 1:保護者による学校生活アンケートにおいて、授業に対する肯定的な意見が60%未満。 | | | |
| | | 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 | | | | |
| 家庭・地域の教育力向上 | 学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくり出します。 | 教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 | 4:保護者による学校生活アンケートにおいて、「意欲的に学習に取り組んでいる」の家庭学習達成率が85%以上。 | 4 | 【取組】 ○「大ー小スタンダード」で、学習や生活について啓発し、家庭学習に取り組んだ。保護者アンケートでは、96%が良くできていると評価していた。 ○東京ベーシックドリルを活用して、家庭学習に取り組んだ。 【今後の改善策】 ○児童の学習がより深まるように、地域力を活かした授業展開ができるよう取り組んでいく。地域の人材活用をより有効にいく。 | ・コロナ禍で地域との交流が減った。回復するのに時間がかかりそう。 ・家庭、地域との連携は大人になったとき人生のプラスとなる。 ・地域との交流活動を大人が工夫して行うことが必要である。 ・子供たちの成長にあった取組に敬服しています。 |
| | | 学校評議委員会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 | 3:保護者による学校生活アンケートにおいて、「意欲的に学習に取り組んでいる」の家庭学習達成率が75%以上。 | | | |
| | | 「大ー応援団・あしんぐ大ー」と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。 | 2:保護者による学校生活アンケートにおいて、「意欲的に学習に取り組んでいる」の家庭学習達成率が65%以上。 | | | |
| | | 学習する習慣が身に付くように、各家庭が「学年×10分」の家庭学習に取り組むように働きかける。 | 1:保護者による学校生活アンケートにおいて、「意欲的に学習に取り組んでいる」の家庭学習達成率が65%未満。 | | | |
| | | | | | | |